



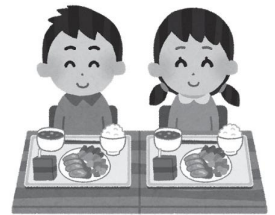
さいとうかずのぶ
齋藤一信議員

物価高騰が市民を直撃！
市民の生活を守れ。緊急支援待ったなし

議員 本市の子供たちの健やかな成長のために、学校給食の栄養価、量、品質、価値の維持を、ぜひ継続的に行っていただきたい。令和5年度以降の学校給食費値上げ分を市が負担することについての考えをたずねる。

教育部長 従来の給食を維持、提供するには、食材の購入に係る高騰分の給食費の見直しが必要である。慎重に考えたい。

議員 給食費の値上げをストップしてほしい。子育て世帯は今、本当に困っている。また、燃料高騰に影響を受けている人も大変な状況にある。ぜひ、そういった方々に少しでも光が当たるように、総力を挙げて対応をしていただきたい。



市民病院建て替え決定。
いつ、どんな病院ができるの？

議員 笠岡市民病院の建て替えについて、その規模、経営形態についてたずねる。また、撤去費を含む建築費を計算すると52億円となるが、この試算は合っているか。

健康福祉部長 令和8年度中の開院を目指し、細かい事柄は今年度中に示していきたい。計算はおおむね合っているが、さらに物価高騰分もプラスになってくる。

議員 「中庸の医療」が公立病院には必要である。利益を追求するのではなく、それができない部分を公立病院が担う。一方、最新の医療で市民を助ける、そういった医療も重要である。とにかく本市は新病院建設に舵を切った。一致団結し、市民に喜ばれる、すばらしい病院をつくりましょう。



くりお のりこ
栗尾典子議員

子ども・子育て支援の今後の方向性について問う

議員 子育てステーションの整備が必要な理由とその根拠は何か。

こども部長 子育てに関するアンケートでは、笠岡は子供の遊び場が少ない、子育てに関する情報が得られにくい等の声があり、具体的な対応として、整備を計画している。

議員 私のヒアリングでは、遊び場も相談窓口も充実しているという声が非常に多かった。ただ、生活に余裕がない人ほどサービスの利用が少ない。子育てステーションの整備により、解決できるのか。
こども部長 制度を周知してもらえよう、親同士の交流やネットワークにより、情報が入るような仕組みをつくりたい。



議員 子育てステーションの第一の目的は何か。

市長 しっかりとサポートし、出生数を増やすことである。

議員 子育て支援がうまくいってれば、既婚女性が一生の間に産む子供の数が増えるのではないか。

政策部長 参考にして今後の政策に生かしたい。
議員 子育て支援は、定住対策や少子化対策の道具や手段である必要はない。本市でもベビーシッター利用支援事業のような仕組みがあればと思う。休眠状態の保育士を掘り起こし、ファミリーサポート制度を、より安心で安全な仕組みに変えてほしい。